

向こう3か月の天候の見通し 東海地方 11月～1月

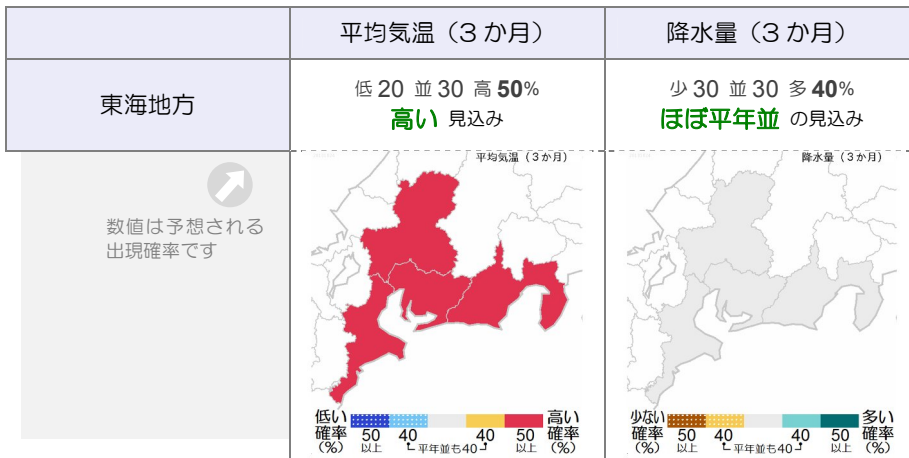
名古屋地方気象台

予報のポイント

- 北からの寒気の影響を受けにくいでしょう。冬型の気圧配置は長続きしない見込みです。
- 平野部では平年と同様に晴れの日が多いですが、岐阜県山間部では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。

この時期の天候に影響の大きい北極振動の予想は難しく、現時点では考慮できていませんので予報には不確実性があります。常に最新の1か月予報等をご覧ください。

3か月の平均気温・降水量

















月別の天候

11月	12月	1月
移動性高気圧や大陸から張り出す高気圧に覆われやすく、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。月のはじめには気温の高い時期がある見込みです。	冬型の気圧配置は長続きせず大陸から張り出す高気圧に覆われやすい見込みです。平野部では平年と同様に晴れの日が多いですが、岐阜県山間部では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。	冬型の気圧配置は長続きせず大陸から張り出す高気圧に覆われやすい見込みです。平野部では平年と同様に晴れの日が多いですが、岐阜県山間部では平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

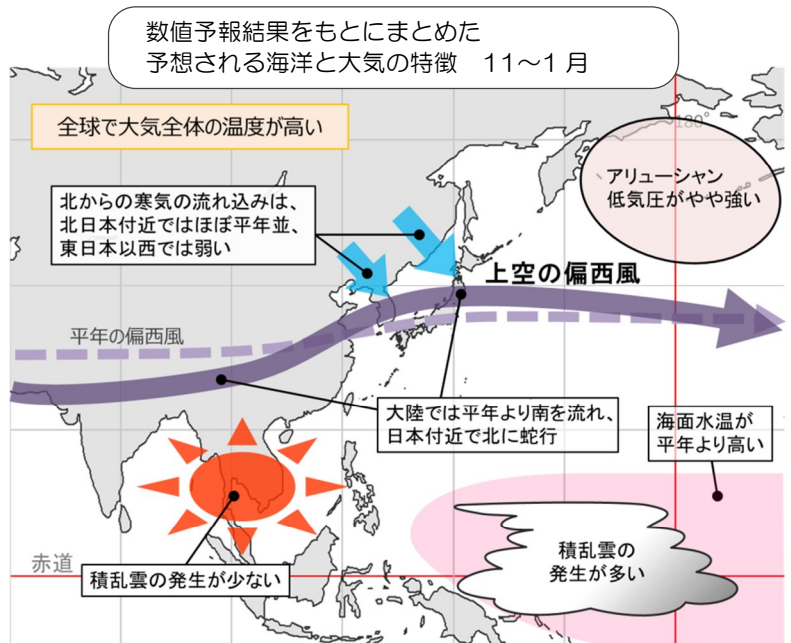
月別の平均気温・降水量

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
東海地方	低 20 並 30 高 50% 高い 見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み
 数値は予想される 出現確率です	 <p>平均気温 11月</p>	 <p>平均気温 12月</p>	 <p>平均気温 1月</p>
			

	降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
東海地方	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並 の見込み
 数値は予想される 出現確率です	 <p>降水量 11月</p>	 <p>降水量 12月</p>	 <p>降水量 1月</p>
			

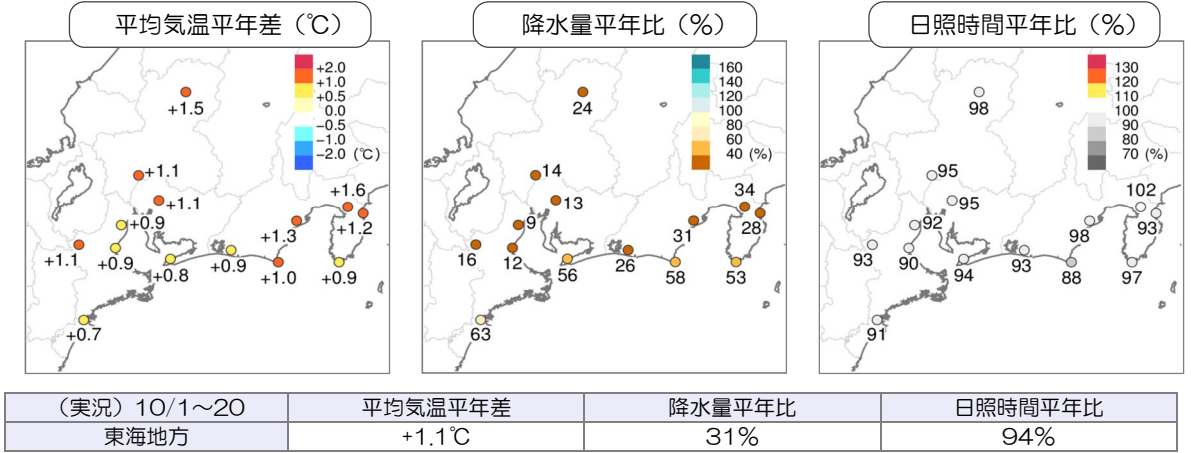
予想される海洋と大気の特徴

- 全球で大気全体の温度が高いでしよう。
- 熱帯域では、ニューギニアの東から太平洋東部で海面水温が平年より高く、積乱雲の発生が多い見込みです。
- 一方、ベンガル湾から南シナ海では積乱雲の発生が少ないでしょう。
- 上空の偏西風は大陸では平年より南を流れる一方で、日本付近では北に蛇行し、東・西日本から沖縄・奄美では北からの寒気の流れ込みが弱いでしょう。
- アリューシャン低気圧は平年よりやや強く、これに近い北日本には平年とほぼ同程度に寒気が流れ込む見込みです。



今月の天候経過（実況） 10/1~20

上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温も高くなりましたが、中頃は日本海を北東に進んだ台風第25号や前線の影響で曇りや雨となりました。中旬は日本の南海上に停滞した前線の影響で曇った日が多く、また旬の終わりにはこの時期としては強い寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で雷雨となった所がありました。



参考データ

● 平年並の範囲

	平均気温 3か月	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
東海地方	平年差：0.0~+0.5℃	平年差：-0.2~+0.5℃	平年差：-0.1~+0.5℃	平年差：-0.1~+0.2℃
名古屋	7.8~8.4℃	12.1~12.8℃	6.9~7.6℃	4.3~4.7℃

	降水量 3か月	降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
東海地方	平年比：82~114%	平年比：66~113%	平年比：55~136%	平年比：59~115%
名古屋	147.8~200.5mm	49.1~91.5mm	26.3~58.7mm	23.6~54.2mm

「平年並」の範囲は、同時期の過去30年間（1981-2010年）の値から統計的に求めています。30年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30年間の30個のデータのうち、値が高い（多い）方から11~20番目となる10個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。

● 晴れ日数と降水日数の平年値

	11月		12月		1月	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
名古屋	19.5日	6.2日	21.5日	5.5日	21.4日	5.3日

「晴れ日数」は「日照時間が日照時間の40%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量1mm以上」の日数です。この2つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

● 確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上 (20 : 40 : 40)	高い（多い）見込み 平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上 (40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	平年並の見込み ほぼ平年並の見込み
(40 : 40 : 20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない）確率が50%以上	低い（少ない）見込み

寒候期予報の見直しについて
 新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月25日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。